

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 サポ・ゼミ			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日		～	2026年 3月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	5名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		～	2026年3月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別に対応し一人一人に合わせた支援ができる。保護者・保育園・幼稚園と、適宜電話連絡をし、利用児童の様子を共有しています。	毎日行っているミーティングにて情報の共有を重視しています。その情報をもとに個別支援に活かす取り組みをしています。 ・日々の利用者の様子・気持ちを最優先した個別の支援に取り組んでいます。 ・LINE WORKSを活用し、最新の情報の漏れがないよう共有している ・ほぼ毎日モニタリングを1名ずつ行い、支援計画の見直しを行っている ・利用児童に合わせたスモールステップで活動プログラムを考案している	・児童の情報を共有し、保護者に成長と変化を伝える事で支援の内容を充実させていきます。 ・児童の先の将来を保護者様と共有し、将来の方向性を見据えた支援を取り組みを行う。
2	保育士、児童指導員、心理士、教員経験のある指導員が在籍しており、様々な角度から支援出来る事。 ・昨年の保護者様評価をもとに、職員の略歴・資格を通信にして発信し、不安を軽減できた。	毎朝行っている打合せにて数日前の情報から前日の状況まで細かく情報共有している ・児相や不登校児童への取り組みを関係機関と連携して行っている ・サービス担当会議や関係機関との会議に児発管や管理者が参加し情報共有している ・	・多様な職種の見点から利用者様の将来を見据えた肯定的な支援を行う ・体調不良による職員の休み等で保護者様に向けた時間を作ることがきびしかった為、次年度は利用者様のご要望に更にお応えできるように時間の使い方を工夫し取り組んでいきます。
3	生活空間が分かりやすい。 明るく清潔感のあり、勉強に集中できる静かな環境。	・個別空間と遊びの空間を分け、メリハリのある空間にしている ・利用者様の利用時間にあわせた環境作りや、一人一人にあわせた取組みをきめている	・利用者様に安全でわかりやすい空間作りを定期的に職員ミーティングで意見を出し合い改善しています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員、支援員全員の周知を保護者様に紹介すること	職員、支援員の体調不良による休みと急な退社があり利用者様を不安にさせてしまった。職員の欠席理由を児童に説明することができなかった。	・利用者様に職員の情報共有できる対応の速さと工夫が必要。 ・離職防止にむけた仕組み作りと
2	支援プログラムの方法の周知が課題 適宜対応しているが、支援員によって違いがある	・支援内容は、職員間で共有して、最善の方法を日々更新して、支援している。ただ、声掛けのタイミングは、スタッフによって違うが職員のキャラクター・所持資格・経験・年齢によって、利用児童の受け取り方は違うところがある。そのこと自体は、支援の質に関係がないと考えている為、そのことを保護者様に丁寧に伝えていくことが急務である。	一人一人の児童に合わせた悩みや要望に合わせた対応が事業所の良いところではあるが、まとまりがないように少しネガティブに伝わっている事がわかった。 職員の知識を向上させ、職員全員の知識、意識レベルを統一するよう勉強会の内容を充実させ、利用者様へはご理解いただけるよう丁寧な説明をしていく。
3	外部の児童館との交流や研修の機会の提供が課題	利用児童が使用している児童館と小学校担任教諭と電話連絡により情報を共有している	近隣の高齢者施設と行事での関りがあるが、児童館との交流を利用児童の児童館と立案していく。 研修の機会の提供を保護者様に周知する。